手放したものがあるとすれば、
それは何だったのでしょうか。

特別展

てのひらの記憶

















2026.12.12(土) ～ 2027.2.28(日)

開館時間　9：00～17：00
休 館 日　月・火曜日（祝休日は開館）
　　12月28日(月)～1月5日(火)、2月24日(水)
入 館 料　無 料

関連イベント

1 記念講演会
「郊外に暮らす―近代住宅地からニュータウンまで―」
講師：五月女賢司 氏
（公益財団法人東洋食品研究所高碕記念館館長）
日時：1月31日(日) 14：00～16：00
会場：当館大展示室
定員：50名(要申込)
申込：窓口、電話
LoGoフォーム

2 学芸員による展示解説
日時：12月26日(土) 14：00～14：45
　　2月21日(日) 14：00～14：45
会場：当館大・小展示室　　定員：なし(申込不要)

※その他体験イベント多数開催。詳しくは下記HPをご覧ください。

池田市立歴史民俗資料館
Ikeda City Museum of History and Folklore

特別展 HP
https://www.city.ikeda.osaka.jp/soshiki/kyoikuiinkai/rekishi/event/kikakuten/21522.html

特別展

てのひらの記憶

てのひらは、体の中で最も道具を知っている部分です。めんこが風を切る感触、洗濯板で汚れが落ちる手ごたえ、そろばんをはじく指先の感覚。かつてそれらを手は覚えていました。

道具が変わるたび、くらしは楽になりました。重いものを持たなくてよくなり、時間をかけなくてよくなり、覚えなくてよくなりました。では、そのとき手放したものがあるとすれば、それは何だったのでしょうか。

本展は、主に戦後から平成にかけてのくらしの道具を手がかりに、「つくる」「はこぶ・うごかす」「おぼえる・かぞえる」「あそぶ」「つたえる・つながる」の五つの章から、道具の変化が人の判断や技能、人と人との関係をどう変えてきたかをたどります。てのひらが覚えていること、忘れていったことに目を向けてみてください。

つくる



はこぶ・うごかす



おぼえる・かぞえる



あそぶ



つたえる・つながる



池田市立歴史民俗資料館

Ikeda City Museum of History and Folklore

〈お問合せ〉TEL. 072-751-3019

〒563-0029 大阪府池田市五月丘1-10-12

https://www.city.ikeda.osaka.jp/soshiki/kyoikuiinkai/rekishi/index.html



【交通案内】

●阪急宝塚線「池田」駅下車　徒歩約15分

●阪急バス「池田」

③のりばから「井口堂」
もしくは「阪急石橋北口」行き
「辻ヶ池公園前」下車　徒歩約5分

④のりばから「五月山公園・大広寺→五月丘
→東畑」行き　「五月丘」下車　徒歩約8分

●駐車場　19台(無料)